

「台湾派遣参加報告書」

京都大学文学研究科 3 年 澤田和範

① プログラムの内容

9 日の派遣期間のあいだに、以下の活動を行った。

- (1) 政治大学で行われた国際会議 (Selfhood, Otherness, and Cultivation: Phenomenology and Chinese Philosophy) へ参加、
- (2) Academia Sinica における指導教官・出口康夫の公演に参加、
- (3) Tung Hai-Kyoto Graduate Exchange Workshop in Philosophy 2019 で発表、
- (4) 国立台湾大学での 2nd Joint Workshop of NTU-Kyoto on “Self and Subjectivity: from Multi-cultural and Interdisciplinary Perspectives” へ参加、
- (5) 同大学での 2nd Kyoto-NTU Philosophy Colloquium of Graduate Students でコメンテーターを担当、および自身の発表。

② 学習成果

私自身、たまたま今年度は「徳倫理学」へと研究を拡げていたので、今回の台湾派遣での各学会のテーマが概ね「自己 (self)」に関わるものだったこともあって、さまざまな発表から自分の研究にとって重要な視点や論点を学ぶことができた。

また、自身初めてのコメンテーターをそつなくこなすこともでき、自分の発表についてもある程度の手応えがあった。一方で、質疑応答になると、なかなか自分が日本語でこなせるレベルの応答は難しいことが実感され、今後の英語学習のモチベーションにもなった。

さらに、今回は、国立台湾大学のほうで(4)に係る Proceedings を発行していただき、英語論文を載せることができた。

③ 海外での経験

三年ぶり三度目の台湾だと思う。現地の人との交流も数年に渡ってきており、新たな発見とともに、変化を見ることができるようになってきた。継続は重要だと感じる。

新しいこととしては、台湾の友人に台湾歌壇 (日本の和歌の愛好会) に連れて行ってもらい (連れて行かれ)、戦中の日本語教育を受けた世代を中心とした方々と、個人的に交流したことが挙げられる。私自身も (無謀にも) 和歌の講評などをした。歌壇も高齢化に悩んでいるようで、台湾で和歌を嗜む人はおそらく絶滅する方向へ進んでいくだろうから、台湾人の日本語コミュニティのあり方の一つを見ることができる貴重な機会をいただけたことになる。戦中戦後の思い出ばなしも興味深かった。

④ 進路への影響

進路への影響はとくにないと思うが、今後の研究の海外発信能力の必要性については、つくづくと実感させられる。